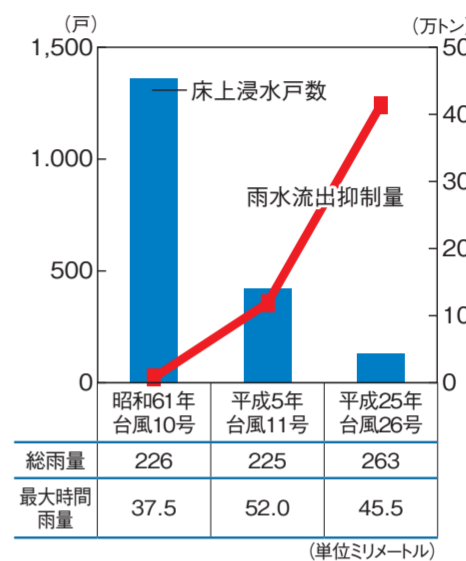


水から守る

4月に大和田ポンプ場稼働開始

水害の原因と対策

田畑が減り地面が舗装されたことで、雨水が地下に浸透しにくくなったことが、水害の大きな原因となっています。市は、これまで排水路やポンプ施設の整備を進めてきました。また、雨水を校庭や公園、マンションの地下などに一時的に溜めたり、地下へ浸透させる流出抑制の取り組みを市民の皆さんと一緒に努めてきました。その結果、全市域の水害は減少傾向にあります。



それでも浸水が多発する地区では

平成25年度に策定した「市川市下水道中期ビジョン」に基づき、市川南地区および高谷田尻地区の浸水が多発する地域で、外環道路の整備に合わせて、ポンプ場を建設するなど抜本的に、浸水対策を進めています。



大和田ポンプ場の稼働開始

その対策の環として、大和田ポンプ場と、そこに雨水を導く最大直径4メートルの巨大な下水道を整備しました。これにより豪雨時に大和田ポンプ場からも雨水を江戸川に排出することができ、市川南地区の浸水被害は大きく軽減します。

安心な街を目指して

今後も市川南ポンプ場の建設やそこにつながる水路整備を続けるなど、着実に施設整備を進めていきます。

豪雨による災害に備え

自ら守る

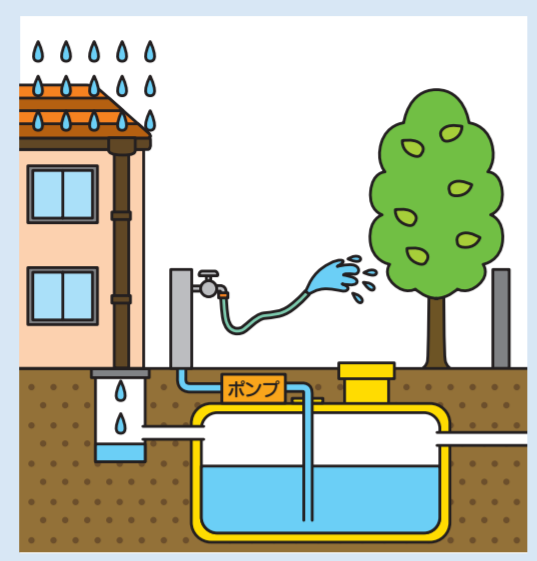
市では、今後も浸水対策を進めていきます。しかし、近年の異常気象による局地的な集中豪雨などは、今後も発生する恐れがあります。これから梅雨、台風のシーズンを迎えます。ここではみなさん自らが生きて財産を守るためにできる取り組みを紹介します。

1. 日常の備え

雨水小型貯留施設

雨水を溜め、河川などへの流出を抑えることで洪水の軽減に役に立つ施設です。下水道の整備に伴って不要となる浄化槽を利用するタイプもあり、敷地の限られた住宅でも設置できます。溜めた雨水は庭の水まきなどに利用できます。

設置費用の助成制度を設けています。
☎712-6361 河川・下水道管理課



雨水浸透施設

雨水を地下に浸透させ、河川などへの流出を抑えることで洪水の軽減に役に立つ施設です。設置に適さない地域もありますので、事前にお問い合わせください。

設置費用の助成制度を設けています。
☎712-6361 河川・下水道管理課

洪水ハザードマップ

事前に避難所を確認しておきましょう。

配布場所 地域防災課(消防局)、危機管理課(仮本庁舎)、行徳支所総務課、大柏出張所、市川駅行政サービスセンター、南行徳市民センター、各公民館。市公式Webサイトでも閲覧できます。
☎704-0065 地域防災課

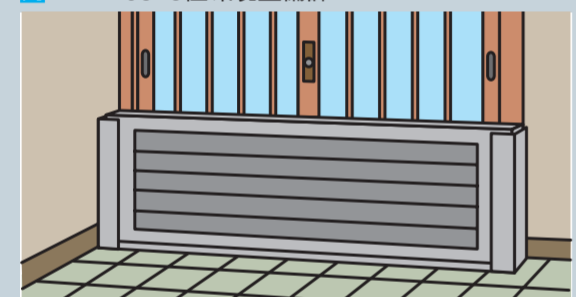


2. 豪雨への備え

防水板

玄関の外などに設置し水の浸入を防ぎます。取り付け取り外しが容易で便利です。詳しくはお問い合わせください。

工事費用の助成制度を設けています。
☎712-6325 住環境整備課



土のうステーション

北方町・大洲・広尾の3カ所の他、信篤に小型ステーションがあり、豪雨が近づいた時に開放され土のうを受け取ることができます。市公式Webサイトなどで開放のお知らせをします。



3. 緊急情報の収集

緊急情報の入手手段

豪雨が迫ってきた時、適切な判断をとるため情報を入手しましょう。

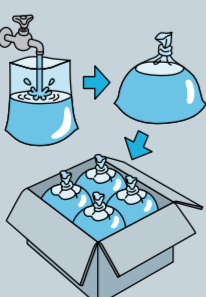
- 防災行政無線
- 防災行政無線テレホンサービス: 防災行政無線の放送内容を確認できます。☎0180-994-889
- ケーブルテレビ(J:COM市川/デジタル11ch)
- ラジオ(ベイエフエム/78.0MHz)
- 市公式Webサイト
- 市公式ツイッター、フェイスブック
- メール情報配信サービス (登録方法は右記QRコード参照)
- ▲メール情報配信サービスの登録
- ▲市公式Webサイト 防災ページ

4. 緊急時の対応

水のう

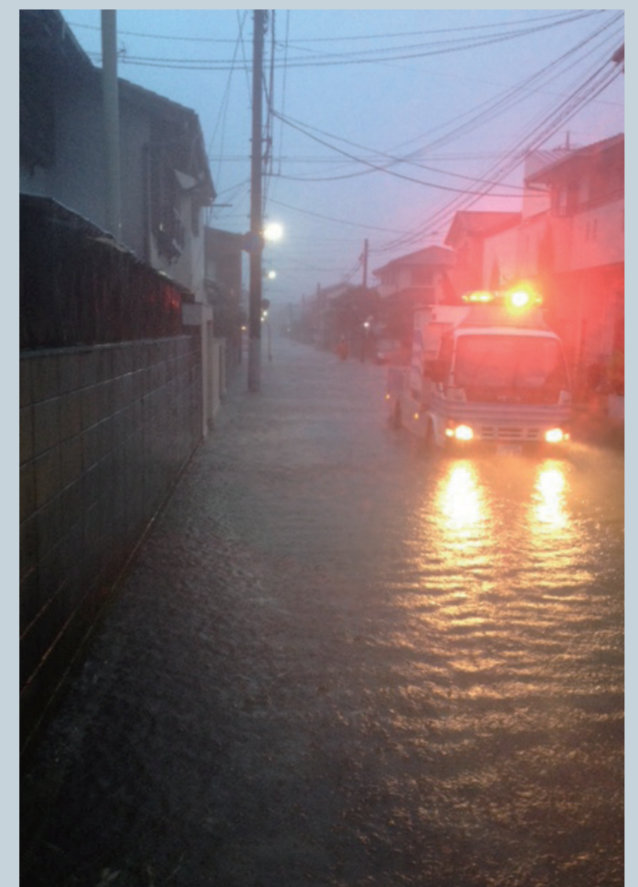
家庭にあるもので簡単に作ることができます。ただし、水深の浅い初期の段階に使用。

- 1) 2~3重にしたビニール袋やごみ袋に半分程度水を入れ、きつく縛る。
- 2) 1)で作ったものをダンボールに入れ、家の入り口や排水溝などに並べ室内への浸水を防ぎます。
※ダンボールをさらにビニールシートなどで覆うと補強できます。



2階などへの避難

急激な降雨や浸水により夜間の歩行による避難が危険な場合は、自宅2階などに避難しましょう。



▲平成25年台風26号による浸水の状況▼



大和田ポンプ場の内部
現在 ポンプ4台設置(雨水を1秒あたり19トンで江戸川に排出、25メートルプールの水だと約19秒で排水)
将来 ポンプ5台設置(雨水を1秒あたり27トンで江戸川に排出)



大和田ポンプ場
非常用電源を備え
災害にも強い施設



市川南7号幹線
地下34メートルで
外環道路を横断

地上まで34メートル



直径4メートル

市川南7号幹線
外環道路の東側の雨水を
大和田ポンプ場へ導く管

市民の生命や財産をおびやかす水害。古くは昭和33年の狩野川台風、近年では平成25年の台風26号などにより大きな被害をもたらしました。市はこれまでさまざまな浸水対策を進め、この度、4月に大和田ポンプ場が稼働を始めました。今後も安心な街を目指してまいります。近年は異常気象による豪雨も見込まれます。これから迎える梅雨、台風のシーズンを迎えて水害に備えましょう。

☎712-6362 河川・下水道建設課